

Tomorrow

第 12 号 '18 年 02 月発行

独立行政法人国立病院機構金沢医療センター
がん相談支援センターがんサロントゥモロー
(院内 2 階) ピアサポーター 's 発行



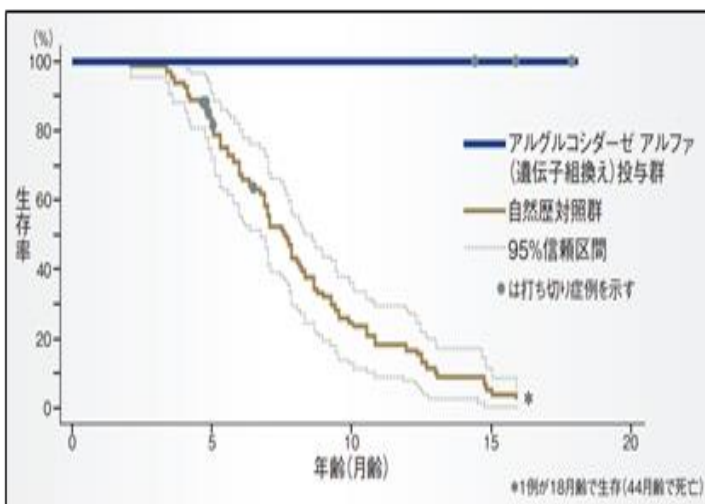
*くすりのココだけの話 治験主任 田淵 克則

ポンペ病という病気を皆さんはご存知でしょうか。遺伝性の病気で、グリコーゲンというエネルギーの源がうまく活用されず、体の中に蓄積してしまい、タイプにもよりますが治療しないと亡くなってしまいう可能性の高い病気です。

昔は当然、治療薬はありませんでした。通常、1つの医薬品が世の中に出るまで、100 億円以上 10 年以上といった、膨大なコストと時間がかかる上に、有効性、安全性に問題があると、開発はそこで止まってしまいます。そのため、採算のとれない薬が世の中に出る事はあまりありません。

今やポンペ病の治療薬は国内でも「マイオザイム」という商品名で販売されています。この薬の開発は、ある家族のお子さんがポンペ病を発病した事から始まり、薬剤の専門知識のないお父さんが、かなりの努力を要して、最終的に薬は世の中に出る事になります。薬剤の世界では奇跡的な開発を遂げた薬剤と思いました。「小さな命が呼ぶとき」という名前で映画も出ていますので、興味がある方はぜひご覧ください。

※ポンペ病に対する治療薬の投与群と非投与群についての生存率推移



カメラ小僧のつぶやき

12号 2018年2月

昨年4月我が家の2階から窓越しに撮ったものです。JR七尾線で深夜の保線作業(枕木交換)の様子です。朝の4時頃、仕事とはいえ大変ですね。保線作業は終電車と始発電車の間の限られた時間内で行われます。私達が日頃何気なく利用している電車の安全、安心はこのような方々の大変な苦勞のお陰なのです。また、今年は久しぶりの大雪でより大変な苦勞があったと思います。改めて感謝、ご苦勞さまです。



